




テーマ	ヤギの放牧で耕作放棄地の発生を抑制		
実施年度	平成22～24年度	取組内容	ヤギの放牧
取組主体	農業者	活用事業等	福岡市耕作放棄地活性化事業 (市単事業)
取組の経緯	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市における耕作放棄地発生の一因には鳥獣被害があり、特にイノシシによる被害は深刻。一旦、耕作放棄地となれば、草刈り等の保全管理も困難であり、さらにイノシシの住みか、隠れ家となり、周辺にも被害が拡がるなど、悪循環となっている。 このため、福岡市では耕作放棄地の解消の一環として、除草労力の軽減化及びイノシシ被害防止を目的としたヤギの貸与事業を平成22年より開始した。 福岡市能古島は博多湾の中心に位置する周囲約12kmの島で、農業は傾斜地での果樹が中心である。能古島においてもイノシシによる被害、農業従事者の高齢化や販売価格の低下等により耕作放棄地が増加している。 取組者はびわの生産に取り組んでいるが、イノシシによる被害が大きいことから、平成22年、福岡市耕作放棄地活性化事業を活用し、びわ園におけるヤギの放牧に取り組むこととした。 		
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市は、耕作放棄地活性化事業により、ヤギの貸与のほか、ヤギ小屋、金網柵の設置等に要する費用についても助成。 取組者は当該事業を活用し約20aのびわ園に2頭のヤギを放牧。 ヤギは傾斜地を好むため、能古島の地形や果樹園に適している。 		
取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ヤギ2頭の放牧で1ヶ月に5a程度を採食。果樹園の下草刈りなどの労力が軽減され、耕作放棄地の発生抑制に繋がっている。 ヤギへの警戒等からイノシシが来なくなり、高い被害防止効果が発現した。 ヤギは観光客にも好評で、マスコットの存在となっており、都市農村交流の促進の面から地域振興にも役立っている。 ヤギ放牧の取組はクチコミで広がり、他地区からも照会がある。各地への波及とこれによる耕作放棄地の発生抑制に期待。 ヤギ放牧に伴う糞もビワの肥料となっており、ビワ栽培に好影響をもたらしている。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ヤギは有蹄類(偶蹄類)であることから、口蹄疫の発生等に対するリスク管理が重要である。 		
事例写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>放牧前</p>  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>斜面も得意です</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">放牧風景</p>		
連絡先	福岡市農業政策課 TEL 092-711-4841(直通)		